

中村学園大学・中村学園大学短期大学部 広報誌

CELERY セロリ

2006
No.58

CELERY
58

編集 中村学園大学 中村学園大学短期大学部 学事課

発行日 平成18年11月31日

〒814-0198 福岡市城南区別府5-7-1 TEL.092-851-2531
[ホームページアドレス] <http://www.nakamura-u.ac.jp/>



中村学園大学開学40周年記念事業報告

研究内容紹介『企業における情報システムのあり方とナレッジマネジメント』
研究トピックス『「見えない学校」と事前制御』



キャンパスソング発表会

— 広報誌セロリの定期購読について —

個人で定期購読をご希望の場合は、購読料(2年分)として郵便小為替1,200円分と、郵便番号・住所・氏名・年齢・電話番号を書いた紙片を同封の上、学事課宛にお送りください。
なお、広報誌の発行は、年4回(4・7・10・1月)となります。

申込み先 〒814-0198 福岡市城南区別府5-7-1
中村学園大学 学事課 「広報誌定期購読申込」係

表彰のお知らせ

加工油脂栄養研究会賞

短期大学部食物栄養科の古賀民穂教授が、平成17年10月に開催された第13回加工油脂栄養研究会において、加工油脂栄養研究会賞を受賞した。加工油脂栄養研究会は、日本マーガリン協会、日本食品油脂検査協会が主催するもので、前身のトランス酸研究会から22回目となる歴史ある研究会である。今回の受賞は、古賀教授のライフワークであるトランス酸研究が評価されたものである。



古賀 民穂 教授
(短期大学部 食物栄養科)

日本消費経済学会(日本学術会議第3部登録学会)学会賞研究奨励賞

平成17年10月短期大学部家政経済科の宮地晃輔助教授が、2005年度日本消費経済学会学会賞研究奨励賞を受賞した。受賞にあたっては、著書「日本企業の環境会計—信頼性の確立に向けて—」創成社刊、2003年 が審査対象となった。本書では、日本企業により実施される環境会計のなかで、企業外部者を対象に公表される環境会計情報の信頼性の確保を目的として、会計監査人における法定監査としての環境会計監査の枠組みに関する論究を展開した。



宮地 晃輔 助教授
(短期大学部 家政経済科)

研究助成・受託研究等採択状況

平成17年度科学研究費補助金の交付決定(追加採択分)

研究種目	研究代表者	研究課題名	平成17年度交付額
基盤研究(C)	吉川 卓也 助教授(大学 流通科学部)	少子高齢化社会における個人の金融行動—ライフサイクル理論の検証—	140万円

平成17年度課題研究調査研究費(社団法人全国保育士養成協議会)「効果的な保育実習のあり方に関する研究Ⅲ—保育実習指導のミニマムスタンダード—」

昨年度公表した保育実習指導にかかるミニマムスタンダード(標準的事項)の「試案」を受けて、引き続き保育実習の理念ならびに各保育士養成校の実習指導の進化と深化に資することを目的としながら「保育実習指導のミニマムスタンダード」の策定を試みたものである。とりわけ、養成校の実習指導者と実習施設の指導担当職員相互が共有できるミニマムスタンダードを構築することを念頭に、全国保育士会など保育士関連の職能団体にも協力を得ながら研究を展開した。

〈研究者〉
那須 信樹 助教授
(短期大学部 幼児保育科)
交付金額/ 6,550,000円



城南区やる気応援事業助成金(福岡市(城南区))「学生参画による地域の子育てコミュニティ支援」

パネルシアターくらぶPEC・べく(児童文化部)においては、地域の子育て支援に学生が参画することの可能性とその意義を探ることを目的とした活動を継続的に行ってきた。平成17年度は、本学が所在する城南区を活動の拠点に、区内の公民館での公演活動や城南市民センターでの子育て支援イベント「のびのび夢ひろばじょうなん」に企画の段階から参画。当日も、運営スタッフとしての活動やミニ公演を実施。当日の映像は、福岡市広報テレビ(Web)番組「どんな街! ふくおか」にて公開中。(http://www.tv.city.fukuoka.jp)

教員の出版物

著者は、本学教員のみ記載、()内は出版社、発行年月



Nブックス
生理学
青峰 正裕 共著
大学 栄養科学部 教授
(建帛社 平成17年9月)



新 公衆衛生学
—社会・環境と健康—
金出 明子 共著
大学 栄養科学部 教授
(光生館 平成17年11月)



九州観光マスター検定
2級公式テキスト
片山 富弘 編著
大学 流通科学部 助教授
(福岡商工出版所 平成17年10月)



日本企業の環境会計
—信頼性の確立に向けて—
(増補版)
宮地 晃輔 著
短期大学部 家政経済科 助教授
(創成社 平成17年10月)



アメリカのキリスト教
原理主義と
政治支援団体
大関 敏明 著
短期大学部 幼児保育科 教授
(文芸社 平成17年11月)



子どもの心の
学び方
久富 さよ子 著
短期大学部 幼児保育科 教授
(西日本法規出版(株) 平成17年10月)



効果的な保育実習の
あり方に関する研究Ⅲ
—保育実習指導のミニマムスタンダード—
那須 信樹 共著
短期大学部 幼児保育科 助教授
(社団法人全国保育士養成協議会 平成17年9月)

テニスコートの拡張整備について(報告)

旧大学付属あさひ幼稚園の跡地利用としてテニスコートの拡張整備工事が、昨年10月末に無事完成しました。一部グラウンドの拡張と併せて広々とした教育施設に仕上がりました。テニスコートについては、関係部署及び設計事務所と共に検討を重ね、授業及び部活動が効率よく且つ快適に利用できるコートとして、全天候型のオムニコート2面とクレーコート2面の計4面を設置しました。各テニスコートの特徴は、(a)全天候型のオムニコートは、夜間利用を考慮して照明設備を併設しました。(b)クレーコートは、テニス練習板を併設。また、移動式の防球ネットを取り外すことでグラウンドの有効利用ができるようにしました。



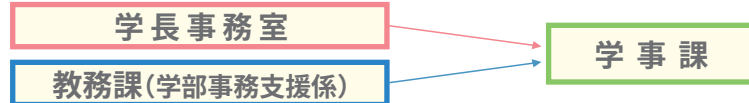
教職員の動き

配置換え人事(平成17年11月1日付)

・法人本部総務部長	村田 勝(教務課長)	・学事課課員	加藤 由紀(教務課課員)
・学事課長	辻原 陽一(法人本部総務部課長)	〃	川田 育実(教務課課員)
・教務課長	坂口 浩隆(学長事務室長)	〃	久保田 玲子(教務課課員)
・法人本部総務部課長補佐	高田 和則(学生課学生会館主事)	〃	塩田 千恵子(教務課課員)
・学事課長補佐	小川 康生(学長事務室長補佐)	〃	橘原 弘子(教務課課員)
・学事課課員	谷垣内 美由紀(教務課課員)	〃	丸田 芳子(教務課課員)

事務組織変更のお知らせ

平成17年11月1日から、事務組織の一部が次のとおり変更になりましたので、お知らせいたします。



※これまでの学長事務室と教務課の学部事務支援係の業務を整理・統合し、新しく「学事課」が設置されました。(学長事務室は廃止)

1/20 第2回流通科学研究科セミナー

本学の大学院流通科学研究科主催の第2回流通科学研究科セミナーが、西4号館2階大講義室にて開催された。このセミナーは、平成16年4月の大学院流通科学研究科開設に伴い、平成14年度から開催していた「流通科学部セミナー」を変えて開催されたもので、企業関係者をはじめ、官公庁、大学、学生、一般の方々を対象としている。今回のセミナーは「起業家は大学で育成できるのか」を全体テーマとし、第1部では今年3月で退職される流通科学部の古川公成教授による基調講演(テーマ「起業家の誕生と大学の役割」)が行われた。第2部では、株式会社フラウ代表取締役社長 濱砂圭子氏、九州大学大学院法学研究院 岡田昌治助教授をパネリストとしてお迎えし、パネルディスカッション(テーマ「起業家マインドを育む活動とその課題」)を行い、会場からの質問も交えた熱心な討議がなされた。また、引き続き、講師や参加された企業の方々、本学教職員との交流会も行われた。



「食物栄養科のあゆみ」発刊



本学短期大学部食物栄養科においては、教育の充実を最重要課題としてFDの推進をはじめ各種活動に取り組んでいる。これら日常の取り組み、活動を記録し、これを基としてさらなるFDの推進を図り、さらには学科の将来目標検討の資料とすべく「食物栄養科のあゆみ」を上梓した。本冊子は、第1部を学科のあゆみとし、入学試験の状況、学科内FD推進の取り組み、教育の充実・高度化への取り組み、就職支援活動など、学科の日常の取り組みについてまとめた。第2部は、学科教員(助手・副手を含む)の研究活動および社会における活動についてまとめた。収録の期間は、第1部は平成15年度までとし、第2部は平成14年度と15年度の2年間とした。現在、平成16年度のあゆみについてまとめ近く発刊の予定としている。

(短期大学部食物栄養科主任 橋本俊二郎)

空手道部が全日本出場

去る11月20日に第49回全日本大学空手道選手権大会(団体戦)が開催されました。全国から地区予選を勝ち抜いた大学が、男子64校、女子68校出場しました。本学からは男女ともに出場しましたが、女子は去る6月5日に開催されました第43回西日本大学空手道選手権大会でベスト8に進出し出場権を得ました。男子は全九州大会でベスト8に入り、審判団の推薦で九州の6大学の枠に入り出場権を得ました。結果は男子が一回戦で早稲田大学に1対4で敗退しました。女子は一回戦で山梨学院大学に2対1で勝ち、二回戦で中京大学に1対2で敗退しました。空手道部は、今年、同好会からクラブに昇格したばかりで、昨年、女子が大会に初出場し、今年からは男子も出場するようになりました。現在、部員は16名で週三回の練習を頑張っています。来年は益々パワーアップし、文武両道を合言葉に、全員の力で頑張っていきます。やる気のある方なら初心者でも大歓迎です。是非、入部して下さい。最後に今年度の団体戦の戦績をお知らせいたします。

- 北部九州大会 男子3位
- 九州インカレ 男女ともにベスト8
- 全九州空手道大会 男子ベスト8、女子3位



11/13 第4回薬膳公開講座

本学の薬膳科学研究所主催の第4回薬膳公開講座、テーマ「薬膳を食べて学んでヘルシーライフ」が、福岡市博多区のパビヨン24・ガスホールにて開催された。(後援:駐福岡大韓民国総領事館、韓国観光公社、福岡県、福岡県工業技術センター)公開講座では韓国の重要無形文化財38号「朝鮮王朝宮中飲食」の技能保有者候補であり、NHKドラマ「チャングムの誓い」で宮廷料理監修を務めた韓国・宮中飲食研究院 韓 福麗院長による特別講演「チャングムのドラマを通した宮廷食文化の紹介」、産業医科大学産業生態科学研究所臨床疫学 徳井敦孝講師による講演「韓国の食と健康」のほか、韓国家庭料理研究家の李 秀子氏による韓国オモニ料理が紹介された。また、西鉄グランドホテルのご協力により、韓国薬膳料理弁当を作っていたいただき、試食が行われた。



11/26 地下鉄七隈線沿線3大学合同シンポジウム

11月26日、本年2月に開業した福岡市地下鉄七隈線沿線の中村学園大学、福岡大学、福岡歯科大学の3大学が連携し、市民の健康づくりに貢献することを目的とした合同シンポジウムが、福岡歯科大学にて開催された。「食と健康」をメインテーマとして、各大学の教育研究の特色に基づいた講演のほか、参加者からの質問・相談に答えるQ&Aの時間も設けられた。講演のテーマ等は次のとおり。



- ・メインテーマ「食と健康」
- ・サブテーマ「知っていますか歯周病の恐怖—せまりくる生活習慣病」
- ・講演 テーマ
 - (1)福岡歯科大学 「歯周病と糖尿病」 演者:坂上 竜資(歯周病学分野教授)
 - (2)福岡大学 「糖尿病は万病のもと」 演者:安西 慶三(血液・糖尿病科講師)
 - (3)中村学園大学 「食事で糖尿病を予防し改善しよう」 演者:今井 克己(栄養科学部助教授)

12/20 食物栄養科特別講演会

短期大学部食物栄養科主催による特別講演会が、西1号館10階大講義室にて開催。北島麻利子氏(福岡県薬剤師会薬事情報センター室長)より、「飲食物・嗜好品と薬の相互作用」をテーマに講演が行われた。食物栄養科の学生のほか多くの教職員が参加し、健康食品と薬剤との相互作用など日常身近な話題に対しメモを取りながら熱心に聴講した。



クリーンキャンパスキャンペーン

いつもは業者の方に任せている学校の清掃を学生の手で綺麗にしよう、そして学生一人一人の美化意識を少しでも高めようということをコンセプトに、昨年の11月10日～11月16日の昼休みにクリーンキャンパスキャンペーン(学内の清掃活動)を実施しました。自治会執行部を中心にサークル、職員の方などの協力もありより多くの学生に呼びかけることができ、教室数が多かったにもかかわらずスムーズに清掃活動が行えました。同時に募集したキャッチコピーも141通という多くの応募があり、ユニークなもの、心を打たれるようなものなど様々なものが集まりました。

クリーンキャンパスキャンペーン中に実施したアンケートの中には「いつも業者の人が掃除をされていて、改めてそのありがたさを感じた」、「自分のゴミは自分で捨ててほしいと思った」などの感想や要望、厳しい意見などもあり、学生がいつも使っている教室に対してどのように考えているかなど様々なことを知ることができました。来年はこれらの意見を基により良いキャンペーンにし、学校全体で取り組む行事としてさらに盛り上げていきたいと思います。

(学友自治会執行部1年 山口真貴子、塩崎佑子)

クリーンキャンパスキャンペーンキャッチコピー【優秀賞】

「拾ったのは、未来です。」(大学 人間発達学部3年 高橋 正幸さん)
 「ごみ拾い わたしの心も ビッカビカ」(大学 人間発達学部1年 松尾 あゆみさん)
 「いやだなあ ボイ捨てする人 見てる自分」(大学 栄養科学部4年 平野 道子さん)
 「そのゴミと一緒に、モラルもすてる気ですか?」(大学 栄養科学部4年 池永 ふみさん)
 「携帯電話だけ?あなたが出来るマナーモード」(大学 流通科学部2年 若松 剛さん)



留学生交流行事

10月8日(土)留学生交流行事のひとつであるバスハイクが行われました。今年の旅行先は、留学生達の念願であった熊本県の阿蘇。朝8時に留学生31名を乗せた大型バスは大学を出発。天気はあいにくの曇り空でしたが、おしゃべりやゲームをしている間に、バスは草千里への山道を登っていき、だんだん高くなっていく美しい山の景色にとっても感動していました。草千里に到着すると、早速、アルバイト先でお世話になった先輩や親戚にとカバン一杯になるほどのお土産を買ったり、草千里名物の乗馬をしたりして楽しんでいました。午後からは次の目的地の「阿蘇そよ風パーク」へ行き、バーベキュータイム。過去最高の参加者で例年にも増して大賑わいでした。お腹がいっぱいになったところで、日本の文化体験。それぞれ思い思いに竹工房、田舎料理、パン・ジャム作りなどの体験コーナーへ。自分で作った田舎料理を堪能したり、好みのデザインでパンを作ったり、出来上がった竹細工を自慢するなどしていました。旅行の最後は毎年恒例の温泉へ。留学生達は大好きな温泉でゆっくり体を温め、日ごろの勉強と生活から開放され、とてもリラックスしていました。参加者からは、「阿蘇はとても良かった。」「今度は阿蘇山頂上まで登ってみたい。」と大好評で、日本文化に肌で触れ留学生同士の交流も一段と深まった1日となりました。

(学生課)



学園祭「第39回霜月祭」開催

本学の学園祭である「第39回霜月祭」を、11月3日から5日の3日間、「結^{ゆい}～手をつなごう。キミとボクと、未来の誰かと～」をテーマとして開催いたしました。開催期間中は11月とは思えない好天に恵まれ、来客者数もこれまでの最高となる8,000人を超え、特に初日に催されたミュージシャン(「アンダーグラフ」)のライブには、会場となった体育館が一杯になる1,000人以上の観客が入りました。体育館ではコンサート以外にも恒例のお化け屋敷、ミスキャンパスコンテスト、王子様コンテスト、ダンスコンテストに加え、イスから1cmお尻を上げてどれだけ我慢できるかを競う「中村がまん大会」や

各マスでの問題をクリアしながらゴールを目指す「中村大SUGOROKU」といった新企画も行いました。野外ステージでは、学生によるライブやダンス、着物のファッションショー、サークルによる発表などが行われ、どれも大変盛り上がりしました。また、身近な材料を使って楽器を作り演奏する「手作り音楽隊」やスタンプを集めて商品をGetする「なかむらアドベンチャー」といった子ども向けの企画には、たくさんの子どもたちが元気いっぱいに参加し、中村らしい学園祭になったと思います。最後になりましたが、学園祭開催にあたって、ご理解とご協力をいただいた地域の皆様方、本学教職員の方々に心からお礼申し上げます。

(学園祭実行委員会)



本学学生が「ベストCS賞」(株式会社ユニクロ)受賞

昨年9月、本学の人間発達学部3年生谷川康一君がUNIQLO(株式会社ユニクロ)の全店舗の模範となる者に贈られる「ベストCS賞」を受賞いたしました。そこで今回、本人から喜びのコメントをいただきましたので紹介いたします。

接客業で最も大切にしていることは 顧客満足(Customer Satisfaction)を遂行していくこと

先日、普段の接客態度及びCSレベルを評価され、九州ブロックにおいて模範となる者に贈られる「CS報奨」、さらにCSに対してブロックに影響を及ぼし、全社の模範となる者に贈られる「ベストCS」(全国で8名)を受賞することができました。まだアルバイトとして入社1年半という短い期間でこのようなすばらしい賞をいただき、本当に嬉しく思います。受賞式では、株式会社ユニクロの柳井正代表取締役会長をはじめ好成績を上げた店長、他のブロックで授賞した方々の仕事に対する熱い想いを聴くことができ、とても勉強になりました。私の仕事上でのモットーは、目の前にいるお客様を常に大事にし、再度ご来店していただきたいと願い、笑顔で接客することです。「お金を稼ぐため」「バイトだから」という気持ちで働けば、それは相手にも伝わってしまいます。やるからには心を決めて「お客様のため」そして「自己成長のため」に、これからも楽しく頑張っていきたいと思っています。「永遠に生きるが如く目標を立て、明日死ぬが如く今を生きる」という心を持ち、学生生活やアルバイトを通して、自分の将来をより確信的なものにできるよう日々成長していきたいと思っています。

(大学人間発達学部3年 谷川 康一)



研究トピックス

社会で話題(問題)になっているものを紹介します

「見えない学校」と事前制御

大学院 人間発達学研究科 教授 柳 治男

「いまだに学校の正体は明らかではない」といったら、多くの人が驚くだろうし、またそんなことはないと思う人もいるであろう。小学校入学以来、私たちは誰も学校教育を十分経験しており、学校のことは熟知していると自信を持っているからである。しかし自信を持っているからこそ、逆説的に学校が見えなくなってしまう。

例えば不登校現象が深刻な教育問題として騒がれ、その原因追求と問題解決に多くの努力が重ねられている。しかしその中で、「子どもが何故学校へ行かなくなったのか」という問いは立てられるが、「なぜ学校へ行くようになったのか」と問う人はいない。学級崩壊現象に関してもまた、崩壊の原因が追求されても、「そもそもなぜ学級は成り立ちうるのか」という問いも生じない。毎日学校へ通うことが習慣となり、学級が成り立つところで教育を受けた経験を持っているために、学校の正体を突き止めることは忘れて、この習慣や経験に反する現象だけを問題として騒ぐのである。

近年の学校研究では、「隠れたカリキュラム」という議論が盛んである。通常カリキュラムという、私たちが意識している教育内容とは違い、意識されず、いつの間にか児童・生徒に教え込まれる「隠れたカリキュラム」が、学校には存在するということである。このことは、誰でも経験し、しかも習慣化されているために、通常の状態では意識されていない、「見えない学校」が存在することを示している。

この「見えない学校」に関する議論を、制御工学で使用される「事前制御(feed-forward control)」という概念を使うと、うまく説明がつく。機械装置が円滑に動くためには、外乱(ノイズ、不純物)が入らないように事前に諸要素を制御しておく必要がある。産業革命以降、幾多の機械装置が開発され、この事前制御の技術が使われ始めた。この技術はイギリスで義務教育制度開始期に学校

にも応用され、生徒の能力水準を一定に保つようクラス分けをし、教える内容も一定に保つためにカリキュラムを分類し、教える人間をあらかじめ決定し、さらに時間も場所も事前に定めておくことが開始された。事前制御の成果として作られたのが学級と時間割であり、学校はその場であわててそろえる必要がないように、事前にすべてが計画的に整理され、運営されているのである。

このような事前制御という仕組みは、義務教育成立とほぼ同じ時期に出現したバックツアーにも応用されている。あらかじめ目的地、経路と利用する交通機関、宿泊所、旅費、案内人、同行者が決定され、気ままな旅行や冒険旅行とは異質な、安くて気軽な旅行を実現させた。しかしそれと同時に、旅行は「未知への冒険から」「既知の確認作業」へと変えられてしまった。冒険性や偶然性が除去され、決められたコースのみを辿るこのようなバックツアーを嫌悪する人は少なくない。

バックツアーへの参加は任意であるが、義務教育制度は、このような事前制御機構の中に、子どもを強制的に入れ込んだ。決められたカリキュラムというコースに従うのみの、事前制御に同調を求められる彼らが、学校に対して嫌悪感を持ったり、脱出を試みたりすることは、避けがたいことであろう。この技術が児童・生徒にどのような影響を及ぼし、問題をもたらししているのか、現在研究中である。



■プロフィール

九州大学教育学部卒業 九州大学大学院教育学研究科博士課程単位取得退学 博士(教育学)。熊本大学教育学部講師、助教授、教授、生涯学習教育研究センター長を歴任 平成17年度より中村学園大学人間発達学部教授。専攻:教育社会学
著書:「学校のアナトミア」東信堂1991年
「学級の歴史学:自明視された空間を疑う」講談社、2005年

研究内容紹介

教員の研究内容を紹介します

企業における情報システムのあり方とナレッジマネジメント

大学 流通科学部 教授 財部 忠夫

私は、大学での教鞭を執る前の33年間は、企業の情報システム部門および情報システム子会社で勤務していました。企業に入社したのは、昭和39年度(1954年)からで、そのころはコンピュータも国産機はなくユニバックの大型汎用機が日本企業に採用されはじめたときでした。その大型汎用機も補助記憶装置が磁気ドラムと磁気テープといったもので、プログラミング言語もアセンブラーという擬似言語を使うといった状況でした。しかも、大型汎用コンピュータはその企業の中で、唯一、空調に効いた部屋に収納され、購入価格も何十億円〜何百億円という高価のもので、皆、はれものにさわるようにおっかなびつくりで操作、運営している状況でした。そんな高価なコンピュータもその当時は、給与計算とか営業統計、生産実績収集といった単純な業務をコンピュータという機械で処理させ、省力化と迅速化・正確化を図った程度のものでした。

それから、約50年の間に、コンピュータを中心とするICT(情報通信技術)は目覚ましい進歩をとげ、企業の情報システムも企業活動にとって不可欠な存在となりました。企業活動の基幹業務(販売、生産、会計・財務、人事等)は情報システムによってきちんと支援され効率的、効果的に処理できるようになりました。また、この基幹情報システムを通して蓄積されたデータ・情報は、データベースに収納され、会計業務を始めとする諸業務に有効に活用できるようになりました。また、インターネットを始めとする通信技術の進歩により企業内はもとより、企業間、国際間にも迅速に情報の交換ができるようになりました。さらに、コンピュータそのものも小型化し、従来、大型汎用機で処理していた能力以上のものをPC(パソコン)で出来るようになり、コンピュータがより身近なものとなりました。今では、必要な時に、必要な情報を、いつでも、どこからでも、取り出せる、“ユビ

キタス”時代となりました。

このような進化の結果、企業の情報システムは、単に企業の基幹業務を支援する機能のみならず、企業の戦略を支援し、意思決定に貴重なデータ・情報を提供できるところまでできるようになってきました。

私の研究は、この「企業における情報システムのあるべき姿とその情報システム構築のあり方」を探究するものであります。中でも最近は、「企業における情報共有、活用のあり方」とりわけ、その中でも、「知識・知恵の共有と活用のあり方」に研究の中心をおいています。21世紀は“知の時代”だといわれています。本来的に、人間という個人の中で生成、蓄積される「知識・知恵」をいかに企業として、組織的に蓄積・活用していくか、という能力が企業格差を生み出していくことになるのです。この知識・知恵は、マニュアル等に記述して共有できる「形式知」と、人間の頭の中、体の中にあって、文章化できない、しにくい「暗黙知」があります。「形式知」から「暗黙知」、「暗黙知」から「形式知」と変換されながら、組織としてのナレッジ(知識・知恵)の共有は進化していくのです。

これらの「形式知」、「暗黙知」をいかに組織的に増殖し蓄積・活用していくしくみを作っていくかが、私の当面の大きな研究課題であります。



■プロフィール

1954年九州大学・経済学部卒、同年、川崎製鉄(株)入社。以来、同企業の情報システム部門、情報システム子会社に33年間勤務。
1996年度より、下関市立大学・経済学部・教授。
2004年度より中村学園大学・流通科学部・教授。日本社会情報学会・理事・九州支部長、経営情報学会・九州支部長。イフジ産業(株)非常勤監査役。専門は、「経営情報システム」、「流通情報システム」。

大学院人間発達学研究科 発足記念祝賀会の開催

大学院人間発達学研究科長 山田 達雄

10月29日土曜日、ホテルオークラ福岡において、大学院人間発達学研究科修士課程の発足（平成17年4月開設）を祝う祝賀会が、ご来賓、本学関係者合計150名余りの出席を得て開催されました。中村量一理事長の新研究科発足の挨拶に引き続き、山田達雄研究科長の研究科設置目的と教育・研究に関する決意宣言が行われ祝賀会は始まりました。ご来賓を代表して、福岡市教育委員会教育長 植木とみ子氏、福岡市立小学校長会会長 山田耕司氏並びに福岡県私立幼稚園振興協会会長 伊豆諒二氏から温かなご祝辞を賜り、福岡市保育協会理事長 古賀文鷹氏による乾杯のご発声によって祝宴に入りました。会のなかでは、同日午後開催された記念講演会の講師である大日向雅美氏（恵泉女学園大学教授）から中村学園の学園祖に言及するご挨拶も頂戴し、また人間発達学研究科1年生の山下満子さんと金丸禎子さんのお二人が本研究科を受験し、入学に至る経緯と現在の研究内容について報告されました。祝宴会場のステージでは、余興として本学の人間発達学部3年生の板倉将俊君によるユーフォニアムの演奏、クリスタルハーモニー部による合唱が行われ、特に学園歌は、大勢の方が一緒に合唱されました。最後に藤本淳学長からお礼の言葉が述べられ、祝賀会は盛会のうちにめでたくお開きとなりました。



福岡市教育委員会教育長 植木 とみ子 氏



福岡市立小学校長会会長 山田 耕司 氏



福岡県私立幼稚園振興協会会長 伊豆 諒二 氏



福岡市保育協会理事長 古賀 文鷹 氏



祝賀会場／ホテルオークラ福岡



クリスタルハーモニー部の合唱

中村学園大学開学40周年記念事業報告(2)

記念講演会開催

大学開学40周年記念事業検討委員会 記念講演会部会長 島内 博行

栄養科学部・栄養科学研究科

- 開催日 平成17年10月29日(土)
- 場 所 福岡国際ホール
- 「管理栄養士—新たな可能性を求めて」
- ・基調講演
トーマスアンドチカライン株式会社
代表取締役社長 カ石 寛夫 氏
- ・パネルディスカッション



大学開学40周年記念事業の一つとして、大学の各学部・研究科がそれぞれに企画した記念講演会を計3回開催いたしました。主に本学学生・教職員を対象として開催されましたが、人

人間発達学部・人間発達学研究科

- 開催日 平成17年10月29日(土)
- 場 所 中村学園大学 体育館
- 「新たな子育ての時代を迎えて
～母親ひとりの“孤育て”から
皆で支える“子育て”へ～」
- 恵泉女学園大学 教授 大日向 雅美 氏



間発達学研究科・人間発達学部の記念講演会は昨年4月に開設された「大学院人間発達学研究科」の開設記念と併せて開催され、日頃学生が就職や実習でお世話になっている保育園、幼稚園、

流通科学部・流通科学研究科

- 開催日 平成17年12月10日(土)
- 場 所 福岡国際ホール
- 「日本の食卓をめぐる
食品・農産物の流通を考える」
- ・基調講演
九州大学大学院 農学研究院
教授 甲斐 諭 氏
- ・パネルディスカッション



小学校などの関係者も多数ご参加いただきました。各学部・研究科の講演会の内容は、次のとおりです。



軽音楽部



クリスタルハーモニー部

曲があり、現在はニューヨーク在住のメジャーな音楽家です。

キャンパスソング「努力の上に花が咲く」が咲く」が完成し、その披露発表会を11月2日午後、学園祭前日に本学体育館で開催しました。当日はアメリカから小田裕一郎氏も来学されました。発表会は、小田氏の企画で広く学生サークルを巻き込んだイベントにすることにいたしました。

大学側挨拶から始まり、キャンパスソングのクラシックバージョンをバックに学園祖中村ハル先生の映像がスクリーンに流れ、曲が終わると共に、和太鼓に合わせて空手道部の演舞、NDA部（中村学園ダンスングアソシエイツ）、クリスタルハーモニー、軽音楽部のパフォーマンスの後、メインイベントであるキャンパスソング「努力の上に花が咲く」が披露されました。賑やかに小田裕一郎オンステージで大いに盛り上がり、エンディングは再びクラシックバージョンで締めくくり、発表会を終了いたしました。



キャンパスソングを唄う学生達



小田裕一郎氏オンステージ



藤本学長から感謝状贈呈



フィナーレ

中村学園大学開学40周年記念事業報告(1)

キャンパスソング「努力の上に花が咲く」発表会

大学開学40周年記念事業検討委員会 大学の歌部会長 西岡 弘晃

中村学園大学は、今年創立40周年を迎えました。昨年の中村学園創立50周年では、祝賀行事を学園を挙げて大々的に開催いたしました。今回は学生を主役に据えた事業を企画することにしました。その一つが学部ごとに学生対象の記念講演会の開催であり、二つ目が大学の歌「キャンパスソング」の制定です。

キャンパスソングの制定は、種々の会合の折に学生達が大きな声を出して唄う学生歌が欲しいということでの企画であり、在学中はもちろん、これを卒業後も歌い続けることによつて、同窓生同士の絆を強め、母校への郷愁を抱き、中村学園大学発展の応援歌にしたいとの想いも込めたものです。

作詞・作曲は、本学教員の非常に近い姻戚関係にある小田裕一郎氏に依頼することにいたしました。氏は、「青い珊瑚礁」「裸足の季節」など数多くの歌を提供して松田聖子を世に送り出し、杏里「キャッツ・アイ」、サカサアメリカン「ファイリング」、長野オリンピック公式ソング「ひとつの地球にひとつの心」などの代表



小田裕一郎氏



大学側挨拶(西岡部会長)



NDA部



和太鼓同好会、空手道部



中村学園大学・中村学園大学短期大学部 広報誌

CELERY セロリ

2006
No.58

C O N T E N T S

リレーエッセイ 第21回 客員教授 太田誠一先生	❶
中村学園大学開学40周年記念事業報告(1) キャンパスソング発表会	❸
中村学園大学開学40周年記念事業報告(2) 記念講演会開催	❺
大学院人間発達学研究科発足記念祝賀会の開催	❻
平成18年度入試結果	❼
2～3月に実施される入試のお知らせ	❽
研究内容紹介『企業における情報システムのあり方と ナレッジマネジメント』	❾
研究トピックス『「見えない学校」と事前制御』	❿
学園祭開催／学生の表彰	⓫
クリーンキャンパスキャンペーン／留学生交流行事	⓬
イベント＆ニュース	⓭
薬膳公開講座／地下鉄七隈線3大学合同シンポジウム／食物栄養科特別講演会／ 流通科学研究科セミナー／「食物栄養科のあゆみ」発刊／空手道部全日本出場／ 研究助成・受託研究等採択状況／表彰のお知らせ／教員の出版物／ テニスコートの拡張整備／教職員の動き／事務組織の変更	

【今月の表紙】 テニスコート
大学付属あさひ幼稚園の跡地を利用して、テニスコートの拡張整備工事をいたしました。
(※詳細は本号14頁を参照)



中村学園大学は2003(平成15)年4月1日付で、財団法人大学基準協会より大学基準に適合しているものと認められ、正会員として認定されました。

リレーエッセイ 第21回

客員教授 太田誠一先生

理事長 中村 量一

本学の客員教授 太田誠一氏が昨年の衆議院選挙において見事に八回目の当選を果たされ、国政に復帰されました。

私と太田先生とは大学が一緒で、ご縁は大学生時代に遡ります。初めて言葉を交わさせていただいたのは私が大学四年生、先生が大学院生の時、福岡出身者の会合だったと思います。その後、先生は博士課程を修了されて福岡大学経済学部講師となられ、私は地方の銀行員として忙しい毎日を送っていましたのでお会いする機会はありませんでした。

先生と親しくお付き合いをさせていただくようになったのは(といっても常に後輩としてですが)ある会合に参加させていただくようになってからです。先生がはつきりと政治の道を志されるようになったのは米国ブラウン大学での客員助教授生活を終えられ、帰国された頃からだろうと思います。

当時(昭和五十三年頃)太田先生は「分権システム研究会」という会を主宰され、私もメンバーの一員として声をかけていただきました。二十人くらいの仲間と地方分

権政治のあり方について侃侃諤諤議論したものです。その頃は「分権」と言っても「文研(文学研究)」と間違われるほどで、先生の「中央集権体制から地方分権体制への政治システムの改革を」という先見性に二十五年以上たった今、改めて敬服する次第です。現在先生は地方行政調査会会長、並びに自民党改革実行本部長という要職に就いておられ、政治家としての初心を見事に貫かれておられます。

太田先生のことを語るとき、私はいつも昭和五十七年二月に起きた福岡発JAL三五〇便の日本航空羽田沖墜落事故を思い出します。妄想性精神分裂症の機長の操縦ミスによる、死者二十四人、重軽傷者百五十人にのぼる痛ましい事故でした。その日、私の友人は東京への出張命令を受け日本航空羽田行きチケットを持って福岡空港へ到着いたしました。空港でばったり太田先生に会った友人は、誘われるままに太田先生が搭乗する同時刻出発の全日空便に切り替えたのです。お陰で彼は事故にあわずに済みました。もともとそんなこと

とは露知らず、友人の会社では昼過ぎまで連絡が取れず大騒動だったそうです。

太田先生は残念ながら過去に二回の落選経験があります。最初は初立候補のときで準備不足のためでしたが、「話が難解だ」「頭の下げ方が足りない」と言った声があったのも事実です。二度目は前々回の選挙のときで、講演のなかでの話の一部だけを取り上げられて、女性蔑視と誤解を受けての落選でした。しかし幸運なことには二度ともに非常に早い時期(最初は八カ月後、二度目は一年十カ月後)に解散があり、再選を果たされました。結構、先生は強運の持ち主だと思います。

解散までの短い間でしたが、客員教授として本学の学生とのふれあいがあり、先生自身も大いに触発されたものがあると思います。引き続き客員教授をお願いいたしておりますが、今後とも将来を担う若者のよき理解者として政治活動に励まれますよう祈念いたします。